

静岡県版SELの発刊に寄せて

ここ数年、地球レベルで地震や水害など大きな災害が頻発し、世界各地で戦争・紛争が起きています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックがあり、今の子供たちは、ソーシャルディスタンスが当たり前の世界で育っています。身近なところでも多数の人たちを無差別に襲う殺人事件が起き、「ドラえもん」や「ちびまる子ちゃん」のように、公園で子供たちだけで遊ぶ、ということが難しい環境にもなってしまいました。今の令和の時代は大人が子供の頃を過ごした昭和・平成の時代より、予測不能なことが当たり前に起こる時代になったように思います。さらにAIなどの技術により、将来の見通しも全く予測がつかない状況になってきています。

こうした時代背景もあり、OECD（経済協力開発機構）は、「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」として、個人や社会のウェルビーイング：私たちの望む未来（The Future We Want）に向けた方向性を示し、学びの中核的な基盤、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシーなどを掲げています。この中に、Social and Emotional Skills（社会情動的スキル）があげられています。

この社会情動的スキルをよく見てみると、日本の学校の教育目標ととても近いことがわかります。「思いやり」、「やり抜く力」・・・どれも先生方が普段の教育活動で子供たちにつけてもらいたいと考えている力だと思います。このプログラムではこれまでの教育活動にプラスして、こうしたスキルを体系的に、しっかりと子供たちに伝えていけるよう作成されています。そのため、先生方が子供たちに対して、将来、いろいろなことが起きても自分らしく生きていってほしいという願いを子供たちに届ける手立ての一つになりうると考えています。そこで、次は、先生方がこのプログラムを直接子供たちに届けて頂く番です。子供たちの Well-being を支えるために、先生方の子供たちの幸せを願う思いを乗せて、存分に力を発揮していただけたら嬉しく思います。

最後になりますが、本プログラムの作成にあたり、多くの先生方にご協力いただきました。また、公益財団法人はごろも教育研究奨励会様には冊子の印刷のご支援を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。このように、先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様が、静岡の子供たちの Well-being を願う気持ちは、皆一緒であると強く思います。これらの思いが、子供たちの未来につながることを心から祈念しております。

静岡県教育委員会人間関係づくりプログラム改訂研究委員会委員長
静岡大学教育学部教授
小林 朋子